

# CAGLIERO 11

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.76 - 2015年4月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



## アカシュ・バシール

19歳、ラホールのサレジオ同窓生。彼の名と血は、2015年、私たちの四旬節の旅の、最後の歩みを満た

しました。「信仰への憎しみ」は教会がその人を殉教者と宣言するための必要条件です。この場合、議論の余地なく殉教者です！

今月、私たちは、中東と北アフリカの若いキリスト者たちのために祈ります。心を打つアカシュの模範から私たちもインスピレーションをもらいたいと思います。これほど若いのに、彼は人生の短い時間に福音の本質を理解し、実践しました：兄弟のために命を渡すこと！「一粒の麦が地に落ちて死ねば、多くの実を結ぶ」。

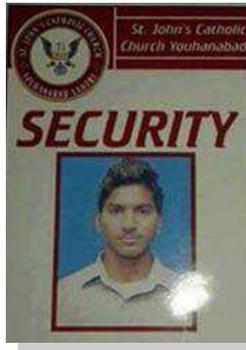
あらゆる宣教への応答、サレジオのボランティア活動のあらゆるプロジェクトの根底に、この同じ望みがなければなりません：兄弟のために自分の命を渡すこと。または、セフェリーノ・ナムンクラが言ったように、「同胞の役に立つ」こと。

ありがとう、親愛なるアカシュ！君の命は本当に同胞の「役に立った」！私たちも君に倣いたい！

多くの実を結ぶご復活をお祈り申し上げます！

*J. Basanes*

宣教顧問  
ギジェルモ・バサニェス神父



**先** 先月、2015年3月15日の日曜日、パキスタンのラホールで、勇気ある警備員が、混み合ったカトリック聖ヨハネ教会に入ろうとした、過激派組織ジャマート・ウル・アフラルに所属する自爆テロ犯を阻止しました。警備員の名はアカシュ・バシール。アカシュは、キリスト教徒が多数を占める地区、ユハンナバードのサレジオ技術専門学校の卒業生。彼は自分の体を盾にして襲

撃しようとする人物を捕えました。アカシュは命を失い、ほかの多くの命を救いました。

アカシュはもう一人の警備員と共に教会の入り口に立ち、入る人々を確認

していました。自爆テロ犯は入口に近づき、2人の警備員の間を無理やり通ろうとしました。自爆犯を止めたアカシュはジャケットの下の爆発物に気づきました。アカシュは犯人を捕まえ、下半身を爆弾で吹き飛ばされました。彼の勇気ある行動のおかげで、犠牲者の数は犯人がもくるんだよりも大幅に少ないものでした。

「少数派のキリスト者である私たちにとって、時に唯一の希望は神と、神の母マリアなのです」とラホールのサレジオ会員たちは語っています。



**サレジオ同窓生、  
キリスト教徒を守るために  
命をささげる**

*Alleluia!*

「カリエロ11」の読者の皆様  
主のご復活おめでとうございます

## 神のみ旨に従うため、宣教師になった



# 私

の町、ポルトガル、アヴェイロのポンテ・デ・ヴァゴスを宣教師たちが頻りに訪れたことは、実に大事な道しるべになりました。宣教師たち自身が、映画や写真を使いながら、自らのすばらしい体験談を語ってくれたおかげで、私たちも彼らのお手本に倣う可能性を夢見たり、自問したりするようになりました。いまだにイエス・キリストの招きを知らない、あるいはまだ受け入れていない実に多くの人々に福音を宣べ伝えることを。私は“通常の”勉強を続ける機会を与えられましたが、宣教師になりたいという考えと望みが若い私の心に留まり続けていました。しかしまず、建設、金属製作、事務職など、仕事の世界を経験しました。兵役を終えたとき、私はようやく大いなる冒険に踏み出す決心をしました！ 志願期、修練前の養成を受けながら、高等学校に通いはじめました。1年の修練期の後、スペインで3年間、哲学を学び、ポルトガルで実地課程を2年、ローマで5年

間学び、神学の学位と宣教論の修士号を取りました。

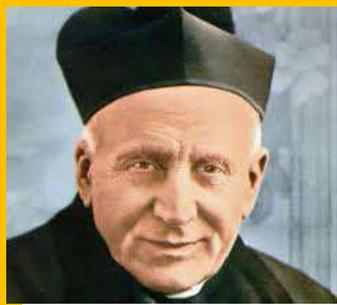
ポルトガル管区のためにカーポ・ヴェルデで4年間宣教師として働いた後、私は2013年10月からモザンビーク準管区の一員として働いています。サレジオ会の、すべての人への宣教 *missio ad gentes* のために、総長の必要に応えるという決心は私を知る人々の間に、また管区の兄弟会員たち間にも疑問を生じさせました。何とんでもポルトガルは、イエス・キリストを知らない人、あるいは信仰を深める必要のある人のたくさんいる国々に属しているのです。……そのため、足元にこれほどたくさんのニーズがあるのに、なぜ宣教地へ行くの?! という疑問がありました。本当のところ、それは私には答えることのできない事実であり、神秘です……私はただ、自分の人生のための神様のみ旨だと思うことを、自分が幸せだと感じるところで、実行しようとするだけなのです！

ドン・ボスコについて、またサレジオ会員の生活についての知識、それに関連する、私の学んだコース、そしてローマとトリノでの新宣教師研修コースは、世界に広がるサレジオの使命を視野に、前進するのに必要な勇気を与えてくれました。若者、特に最も貧しい若者に仕えるために。

この宣教地で遭遇し、生きる、挑戦や喜びは数多くあります……挑戦は、私たち一人ひとりのうちに聖なるみ旨を実現していただくよう、神様にゆだねる勇気を持つことです。



ポルトガル出身、モザンビークの宣教師  
ホルヘ・ベント神父



## サレジオの宣教の聖性のあかし

福者フィリップ・リナルディ (1858-1931)、今年、その列福 (1990年4月29日) 25周年を記念するドン・ボスコの3人目の後継者は、サレジオ会宣教事業の大いなる促進者でした。ある回状で、リナルディ神父は次のように書いています：「ドン・ボスコの大きな心には、フランシスコ・ザビエルの使徒的情熱が燃えていたということを忘れてはいけません。数々の夢を通して未来を照らす炎に養われた情熱です。……私の召命の遠い記憶、その宣教の熱意が最も高まっていた年月の、愛する父の姿が目に見えます：消し去ることのできない印象が私の心に刻まれました。ドン・ボスコはまことの宣教師、靈魂のための熱情に燃やし尽くされた使徒でした。」



## サレジオ会の宣教の意向

信仰のために苦しみに耐える中東と北アフリカの若いキリスト者のために

さまざまな形で迫害と疎外の苦しみに耐える若者たちが、  
イエス・キリストへの信仰にいつも留まりますように。

この意向は、世界各地の難民、特に中東からの難民に心を開くようにとの緊急な呼びかけです。その多くはイスラム教徒ではなく、アラブ系キリスト教徒です。その信仰ゆえに、キリスト教徒のいない中東と北アフリカを夢見る人々によって国を追われた人々です。

